

県立高等学校の配置の方向性について (第8回会議における主な意見)

学校配置に関する主な意見

(基本的な考え方)

- 県内全ての生徒が学びたいことを学ぶことができるような環境を整備することが必要である。そのため、県内をいくつかのブロックに分けて学校の配置を考えるべきである。
ブロックの分け方は、市町の区域や過去の通学区域(学区)などを参考にしつつ、普通科や専門学科などの学科や中高一貫教育校など学校の種類によって異なる場合もあるのではないかと。

(中山間地域・島嶼部の学校配置)

- 小規模校の活性化のためには、学校が設置された地域の支援のもとで学校の特色づくりを進めることが不可欠である。
他県では、地域ごとに協議会や懇談会などを設け、地域と一緒に学校づくりを考え、地域の力が生かされた魅力ある学校づくりが行えている事例があることを参考に検討することが考えられる。
- 中山間地域・島嶼部では、他の地域からも生徒が集まる学校づくりを進める必要がある。例えば、自然を生かした教育により、豊かな人間性や優れた資質を備えた、医師、教員などの人材を育成する学校を検討することが考えられる。その際、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校において、全寮制で地域の自然を生かした教育活動を行っていることも参考に、地域の支援を受けながら、中高一貫教育を実施することを視野に入れて検討することが考えられる。
- 地域の伝統工芸や伝統芸能などに特化した学科等を設置し、伝統工芸や伝統芸能などを受け継ぐ地域の人材を活用した教育を行う学校づくりを検討することが考えられる。
- 生徒が国際競争力を身に付けるという観点から、海外からの留学生の受け入れなどを行う地域と協力して、留学生に囲まれて学ぶことができる、インターナショナルな学校づくりを検討することが考えられる。その際、寮や寄宿舎の活用も視野に入れて検討することが考えられる。

(都市部の学校配置)

- 生徒急増期に新設した学校が、生徒減少期の現在もその学校数を維持している。今後も生徒数の減少が見込まれており、交通の利便性が高い都市部においては、統廃合を検討する必要がある。
- 高等学校には、発達障害のある生徒も在籍しており、こうした生徒に対するケアの充実も必要である。生徒数が減少し、空き教室が生じている高等学校を活用して特別支援学校高等部などを設置するなど、新しいタイプの学校の在り方として検討することが考えられる。

適正な学校規模に関する主な意見

- 中山間地域・島嶼部の小規模校では、豊かな自然に囲まれた学習環境や少人数による指導などのメリットを生かしていくことができること、さらには、様々な事情から、地域の高校に進学するしか選択肢がない子どもたちもいることなどから、学校を残してほしい。
学校を活性化し、残すことができるよう、大胆な学校の魅力づくりを進める必要がある。
- 都市部から中山間地域・島嶼部の高校に入学して、少人数での学校生活を送るということがあってよい。学校の特色づくりは、小規模校は小規模校なりの、大規模校は大規模校なりのメリットを打ち出すことが考えられる。
- 限られた人的資源の中で、生徒の学習や学校生活へのニーズに応えるため、また教員の自校内での日常的な研鑽や校外の研修への参加などによる資質・能力の向上を図るために、一定以上の学校規模を確保することが重要である。
ただし、適正な学校規模の在り方については、全ての高校を一律に考えるのではなく、交通の便や周辺地域における生徒の受け入れ態勢など、当該地域の実態を勘案して考える必要がある。
- 小規模校の特色づくりの結果、生徒の教育環境や教員の資質向上のために必要な学校規模を維持できない場合には、求められる人材を育成する観点から、統廃合を行うこともやむを得ない。

普通科・専門学科・総合学科の比率に関する主な意見

- 専門学科において、高等学校卒業後、大学等への進学者が多くなってきている。こうした状況を踏まえ、専門学科の入学定員や配置する校数の在り方について検討する必要がある。
その際、専門学科の学級規模について、教員の資質や技術力の維持・向上が図れるかという観点を踏まえる必要がある。